



「環境」について学ぶなら、
ぜひ御所実業高校環境緑地科へ

1. あいさつ

私たちは、「生物多様性の保全」研究班です。

私たちは、日頃の専門教科の学習の成果を生かして

- ・貴重種郷土種の保全活動
- ・生物多様性かしはら里山戦略の実施
- ・困った生き物ジャンボタニシの駆除
- ・地域固有遺伝子の保存

等を行っています。

2012年9月、これらの取組みは「国連生物多様性の10年日本委員会認定連携事業」となりました。認定連携事業10事業のうち、学校が認定されているのは**全国で唯一、私たちだけ**です。

それでは、上記4項目の取組みについて簡単に紹介したいと思います。

2. 貴重種郷土種の保全活動

具体的には、貴重野生植物は、オグルマ（奈良県絶滅危惧種）、レンゲツツジ（奈良市産[10数都府県でレッドデータに記載]）、ヒメユリ（大和葛城山産[本年秋より予定]）の保護もしくは増殖、増殖技術の開発を行っています。レンゲツツジについては、奈良公園自然史研究会、奈良公園管理事務所のご協力のもと、効率のよい挿し木繁殖の技術開発を行うことができました。この研究は**日本学生科学賞奈良県審査**において**最優秀知事賞**を受賞する等、成果が認められました。現在はこの技術を応用し他府県でも挿し木困難種の増殖の研究が進められています。郷土作物としては、シコクビエ（紀伊山地系統）、御所柿（御所市産）の系統保存を行っています。シコクビエについては、新たな利用法の開発もを行っています。「しこくびえっ茶」と「しこくびえっ茶がゆ」は昨年、**ならソーシャルビジネスコンテスト**で**高校生部門1位**となりました。



レンゲツツジ



オグルマ



レンゲツツジ発根率UP



しこくびえっ茶



しこくびえっ茶がゆ

3. 生物多様性かしはら里山里地戦略

橿原市昆虫館ボランティア「虫いっぱい里山づくり隊」に団体会員として参加し、同館隣で、地域の環境教育の場となるフィールドミュージアムとしても利用できる里山整備を行っています。通常

の里山整備とは異なり、里山内に多様な環境をつくり、たくさんの種類の昆虫が観察できるように工夫をしています。「通常伐採する高木や常緑樹をあえて残すところ」「伐採木を放置したままにするところ」「下刈りせずササ類を残すところ」「水生昆虫観察池の設置」「食草・食樹の苗をつくり里山と公園の緩衝ゾーンに植える」等を行っています。また樹名板の取り付けや里山観察マップの作成も行い、フィールドミュージアムとして整備を進めています。そして、さらに里山環境に興味関心を持っていただくために、様々なイベントで**里山クラフト体験**を開催しています。



樹名板の取り付け



展示発表・里山クラフト体験

4. ジャンボタニシバスターズ

ワナによるジャンボタニシの捕獲・駆除の効率化を目指して研究をしています。今はジャンボタニシを集める低コスト高誘引餌の開発、ゴミを利用したワナの開発を進めています。また子どもたちを対象とした「田んぼの学校」に参加し、ジャンボタニシ捕獲の公開実験を行い、外来種問題について考えてもらうきっかけにしています。

高誘引餌の研究は順調に進んでいます。この研究は**奈良県学校農業クラブ連盟研究発表会プロジェクト発表（区分：環境）**で**最優秀（同区分は6年連続の最優秀）**となりました。

昨年、ナメクジ退治にビールを使用することをヒントにビール寒天を作って試したところ効果があることが分かったため、アサヒビール（株）様に格別のご配慮をいただき、ビール粕を利用した高誘引餌の開発を進めています。今のところ、ビール粕乾燥粉末が誘引力がかなり強いことが分かってきました。奈良県農業総合センターのご協力のもと実地試験も行っています。また持効性が弱いため、本校薬品科学科と連携し、コストも考えながら改良を進めているところです。



2頭ともジャンボタニシ



牛乳パックワナがぎゅうぎゅう

5. 地域固有遺伝子の保存



里山の常緑樹の挿し木繁殖

地域固有遺伝子に配慮した造園樹木や蝶の食草・食樹の苗生産を始めています。地元の里山で得た種子や穂木を元に苗を生産しています。

守られてるから、守りたい。この星すべての生命。

